

卒業してから半世紀



昭和39年建築科卒 森 信二郎

学校を出てから早50年が経過。

70歳になろうとしている今もまだ野球をしている。子供や孫からは「野球バカ」と言われながらも、

工業に入学して野球部員募集で集まった新入生は総勢70名ほど
中学時代は主将、4番打者、ピッチャー等すごい肩書きの者も多い、それに比べ私は長崎市の中体連で4番は打ったが1塁手で主将ではない。この大人数の中で残って最後まで野球をやれるか不安だった。

しかし練習が始まって1週間、1ヶ月を過ぎるといつの間にか半数以下に減っていた。毎日、毎日隣接の長崎大学との仕切りブロック塀の外で声出してファールボールを探すのが日課だから面白くない、やめていくのも当然だった。1塁側に飛ばばバレー部、テニス部から怒鳴られる。狭いグラウンドで野球、サッカー、ラグビー等同時に練習するのだから、事故が起きないのが不思議だった。

それに比べると専用グラウンドでのびのびと練習ができる現在の環境は羨ましい限りだ。3年生が去り8月に入ったある日、南山高校との練習試合に負けての帰り道、山口先生（監督）に「森君、ピッチャーはどうか？」と尋ねられ、私は即座に「はい、やります」と答えた。それから私の長く、苦しく、楽しい投手人生が始まった。毎日、毎日最初に打撃練習、その後はダッシュ、ピッチングの繰り返し・・・走るのが一番苦手な私には地獄の毎日だった。

しかしその努力が報われる日が来た、8月の新人戦で一死満塁でのリリースが投手としてのデビューだった。その場を無得点で切り抜けた自信がその後の試合につながり、現在に至っている。あと10年80歳まで野球が出来れば最高の人生だと思う。

後輩の皆さん、大いに野球人生を楽しみましょう！

※ 森名誉会長時代は家野町校舎 長崎県生涯野球協会グラバーズ古希の部で現役4番打者

※ ラグビー部は32年から県下では7連覇（全国大会花園5回出場）

